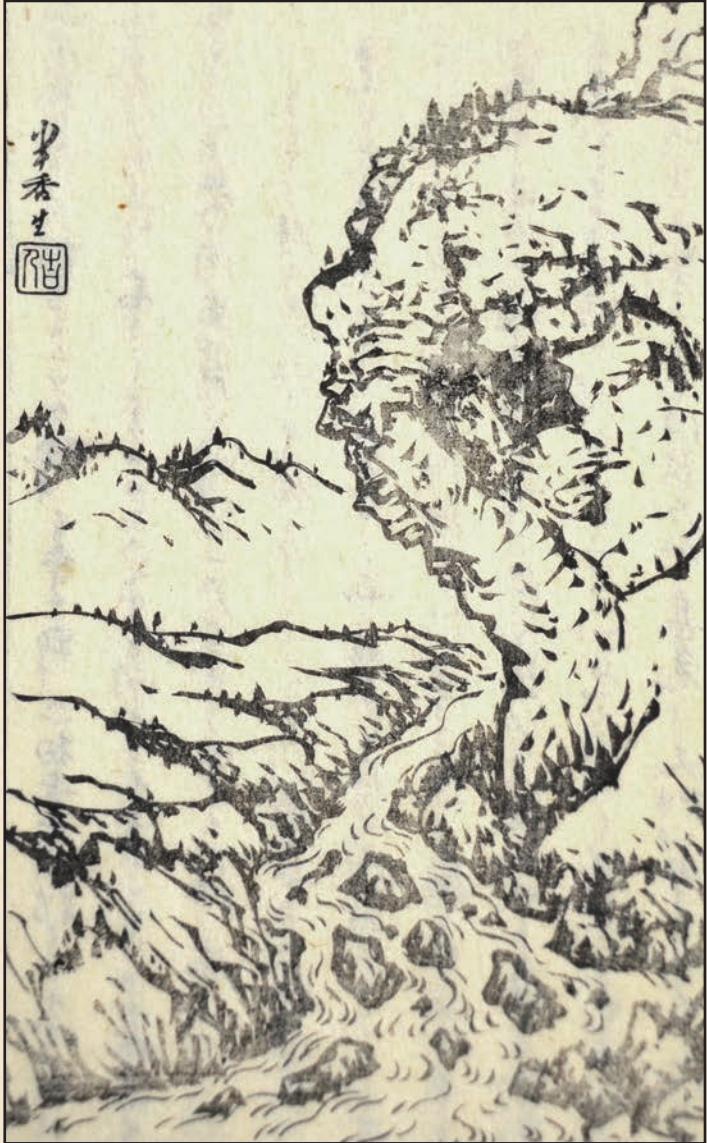


高く険しいこの岩壁に、木々がまるで髪の毛のよう<sup>かみ</sup>に絡<sup>から</sup>まつた場所があり、アイヌの間ではここを「カムイロキ」、

神のいる場所と呼んでいます。昔からこの洞穴には中に入ると生きて帰つてくることはできないと伝えられており、この岩にイナウを立ててお祈りをしてから通るのが習わしです。言い伝えによれば、その昔、一人のアイヌが岩壁の上から縄<sup>なわ</sup>を降ろし、それを伝つてこの洞穴に入ったところ、戻<sup>もど</sup>つてはこなかつたそうです。それで、その息子<sup>むすこ</sup>も同じように入つてみたけれども、やはり戻<sup>もど</sup>つてはこなかつたそうです。それ以来、この洞穴に入ることは厳しく禁じられているとのことです。



カムイロキの図。画家の福田半香が描いたもの。



### カムイロキ

「<sup>しんじく</sup>浸食<sup>せき</sup>により生まれた巨大な岩壁。「神が座る場所」という意味。